町長・議長などが陸前高田市を訪問

子どもたちのスポーツ交流などを提案しました

９月15日（木）、島村町長・鈴木町議会議長などが東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市を訪問しました。同市の戸羽太市長のお母様は松田町出身で、市長自身も松田生まれという縁があります。市役所は津波で破壊されたため、同市は７月14日から３つのプレハブ棟の庁舎で業務を行っていました。

訪問した町長・議長などは、戸羽市長と懇談し、まず３月26日に提供した２台の情報収集用バイクについて、関係書類を渡し、正式に寄贈しました。また、寄地区振興協議会・まつだ観光まつり実行委員会・あしがら花火大会実行委員会から町に託された陸前高田市への義援金を贈りました。これで松田町から陸前高田市への義援金は、総額３、７４４、３５０円となりました。

戸羽市長は、松田町から送られた野菜や情報収集用バイクなどの物資と義援金について「温かい対応に感謝したい」、また「母の実家がある松田町には数回訪れており、西平畑公園やミニＳＬ、そして大きく見える富士山が印象的だった」と語っておられました。

また、市長の「復興計画を８年で仕上げたい。それには、今はマスコミに取り上げられているが、１年先、５年先に忘れられて復興から取り残される懸念がある」として、「救援もありがたいが、ぜひ陸前高田市を忘れないでほしい」との訴えが心に残りました。

なお、この懇談で島村町長は、子どもたちの交流として12月23日～25日に松田町に陸前高田市の少年野球チームとサッカーチームを招待し、合同で練習や試合をしたいと提案したところ、戸羽市長から賛意が得られ、同市教育委員会で検討するとの回答をいただきました。年末に陸前高田市と松田町の子どもたちの交流がぜひ、実現してほしいものです。

懇談する戸羽市長（左）と島村町長（右）

壊れた自動車が山積みになった陸前高田市役所前、市役所内にもがれきや自動車が

カメラレポート

自転車の安全な乗り方 足柄上地区大会

８月25日（木）に第33回自転車の安全な乗り方足柄上地区大会が実施されました。この大会は小学生とその保護者に正しい交通ルールと自転車の乗り方を学んでもらい、交通事故を減らすことを目的としています。

松田町からは小学生の部に３チーム、母親の部に１チームが出場しました。なお、母親の部に出場したチーム「せきれい」は見事優勝を飾りました。

第6分団に 新しい情報収集用バイクを配備

９月13日（火）、松田町消防団第６分団に情報収集用バイクを配備し、伝達式を行いました。東日本大震災で被災した陸前高田市に消防団長が町職員と共に、救援物資として町消防団に配備していたバイクを届け、今も被災地で有効に活用されています。今回、その後継として寄の６分団に配備したものです。いざ災害が発生した場合には情報収集・伝達は大変重要な業務となるため、その活躍が期待されます。

ぴょんぴょん橋が復旧しました

川音川に設置されているぴょんぴょん橋は、大雨等の影響を受け、使用できない状態でしたが、県松田土木事務所によって復旧され、９月15日から使用できるようになりました。

まつだ観光まつり あしがら花火大会

８月27日（土）に開催された「まつだ観光まつり」と「あしがら花火大会」は、あわせて55,000名の来場者数を記録しました。当日は、天気が心配されましたが、終始雨に降られることはなく、無事まつりは終了しました。パレードには、松田大名行列を始め、松田小・中学生奴、立花愛児園・幼稚園児奴や立花学園高等学校チアリーディング部・吹奏楽部などが曇天に負けない演技・演奏を披露し、まつりを盛り上げました。

▲力強い演技を魅せた大名行列

毛槍を見事に投げる中学生奴▶

被災地復興祈願の花火が打ちあがった

▼立花学園高等学校のチアリーディングは大人気